

# 縄文のかがやき

## 豊かな海と山の幸に恵まれた縄文時代

縄文人は、クリ・クルミなどの木の実を主食とし、狩猟や採集する魚や貝、鹿・鳥などを副食としていました。

海に囲まれた石巻市は、縄文時代は、入り江が奥まで入り込み、豊富な海産資源に恵まれていました。また、北上山地最南端の山々には、食料となる多くの動植物が存在していました。

そのため、市内には国指定史跡の沼津貝塚をはじめ、多くの縄文時代の遺跡が残っていて、当時としてはかなり豊かな生活であったことがわかります。

また、貝塚などから出土する遺物は、芸術性に優れたものも多く、縄文人の深い精神世界を覗くことができます。



沼津貝塚出土 台付浅鉢  
(毛利コレクション)

### 国指定史跡沼津貝塚

沼津貝塚は、縄文時代から平安時代までの遺物が出土する大貝塚です。丘陵の鞍部にあり、縄文時代は、海が近くまで迫っていたと考えられています。

付近の山には、食料となるさまざまな動植物がいたことでしょう。

写真の中央部周辺が沼津貝塚です。



鹿の角で作られた釣り針と銚先  
(毛利コレクション)

鹿の角は、丈夫で、比較的加工しやすく、釣り針や銚先などに用いられました。



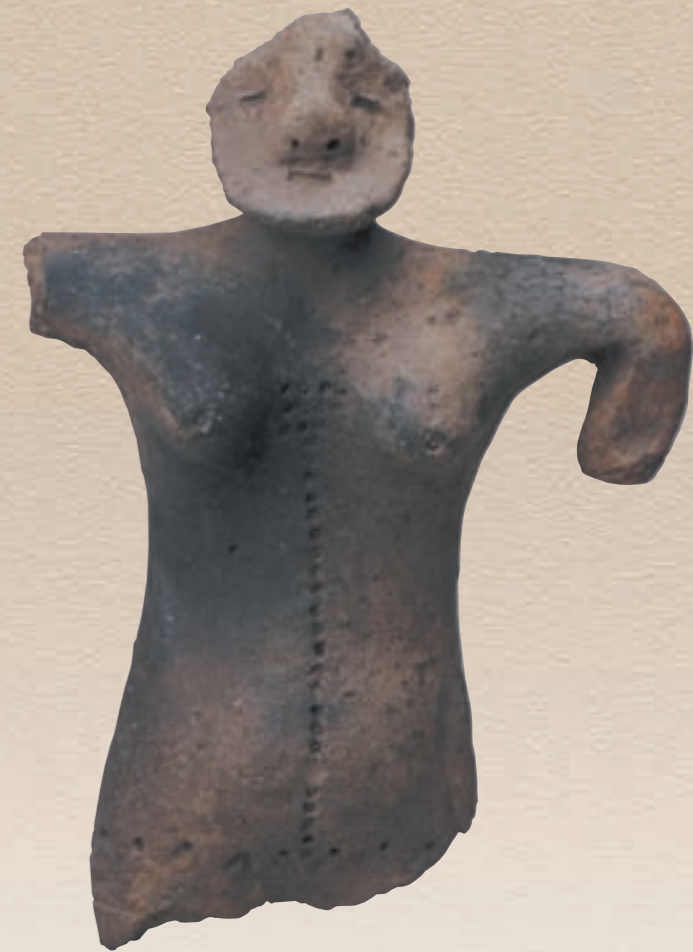
縄文時代の石器 (毛利コレクション)

縄文人は、こうした石器を使って狩猟や採集を行っていました。

特に弓矢の発明は、画期的で、これにより鳥や小動物を容易に捕まえることができました。



南境貝塚出土 香炉形土器



南境貝塚出土 土偶 (毛利コレクション)

土偶は、このように一部が欠けた状態で出土することがほとんどで、妊娠した女性を表している場合も多く、何らかの呪術に使われたものではないかと推定されています。



沼津貝塚出土 壺 (毛利コレクション)